

専念寺通信

十一月号（NO. 147）

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

今年も残すところあと2か月となりました。朝晩、ずいぶんと冷え込むようになりました。皆さま、おかわりなくお過ごしでいらっしゃいますか。『通信』11月号をお届けします。

☆善意と寄付

秋になり、大震災復興のための予算が発表されました。政権が代わったとたんの震災で、多少、さまざまな点で手間取ることがあっても、少し気長にこの国を率いていく人たちの言動を見守ろうと思い、『通信』でもそのように提案してきました。けれど、原子力発電をやめる方向に行くと言明してからすぐに、首相はそれと矛盾する行動をとり始めました。また、毎週おこなわれている国会前の私たちのデモに対して、多少報道していたマスコミも最近はやがてニュースにすることもなくなりました。とりあえずの約束、それを反古にしてあとは知らんぷり、のような子供だましの印象を受けます。私たちの国のすべての人の生命がかかっている、大震災と原子力発電所事故、という前代未聞の事態が起きているのに、です。復興のための国家予算が、震災と直



接関係のないことに使われる予定だと、複数の新聞が報道しました。私たちの納めた税金です。使い道を最後まできちんと見守りたいと思います。

使い道といえば、たとえば日本赤十字に昨年来、寄付されたお金は全体でいくらかいになったのでしょうか。その額と使い道について、どこかに正式に記載されたのでしょうか。少なくとも新聞の一面広告などで、詳しく日本全国に知らせる義務があると思いますが、私はまだ見たことがありません。大きな災害が起きた時に、何かしたいと思い、とっさに思いつく機関はそう多くありません。赤十字には私たちは全幅の信頼を置いています。「足なが育英基金」なども、親を亡くした被災地の子供たちを支援しています。ほかに世界規模なら、「ユニセフ」や「国境なき医師団」が有名です。寄付する側の心と、寄付される側の姿勢がうまく釣り合うとよいのですが。善意が生きるように、ささやかな寄付が生きるように、寄付される機関の人間は心してことに当たらなくてはなりません。人間の質がきびしく問われる立場です。善意はたいせつにとりあつかわなくてはなりません。信頼を得るのには時間がかかり、失うのは一瞬、といえるからです。

写真は左上から、玄関の白い小さい花（この季節、墓地に咲いています）左下は中庭の花梨、ことしは豊作

です。右上はギンナン、右下は墓地の石像と秋の専念寺の墓碑です。寒さに向かいます。皆さま、どうぞお大事にお過ごし下さい。

平成24年11月1日
大黒

